

# 佐世保高専 2 年生を対象とした英語遠隔授業\*

上田真梨子\*\*

## Remote English Classes for Second-year Students of Sasebo KOSEN

Mariko UEDA

### 1. はじめに

令和 2 年のコロナ禍のため、佐世保工業高等専門学校（高専）では前期の 4 月 13 日から 6 月 26 日まで遠隔授業が行われた。本稿では筆者の遠隔授業実施に関連した試行錯誤の過程を詳細に記述し、遠隔授業終了後の学生へのアンケート結果から、遠隔授業の学習成果と今後の課題について考察を行う。

### 2. 遠隔授業開始前の状況

令和 2 年度の前期授業は 4 月 3 日から始まったが、当時は大都市圏で感染者が日々増加し、佐世保市の感染者が 3 名出た状態でいつ休校になるのかの瀬戸際だった。政府の緊急事態宣言は 4 月 7 日に大都市圏対象、4 月 16 日に全国を対象に出された。本校では 4 月 6 日に 4 月 13 日から遠隔授業に入る決定が下され、その準備のために 4 月 7 日から 10 日の間に臨時時間割が生まれ、学生に G-mail, Microsoft Office 365, Microsoft Teams, Blackboard（高専独自の学習管理システム）の講習が行われた。しかし、混乱の中で教員を対象とした上記のツールや動画作成の研修は 4 月 14 日に行われたため、筆者は IT のスキルが不十分のまま遠隔授業を開始することになった。

### 3. 担当クラスの英語学習背景

本校では 2 年生の英語系科目は「英語」が 3 単位（90 分授業が週 1 時間と隔週で 1 時間）、「英作文」が 2 単位（90 分授業が週 1 時間）、ネイティブの非常勤講師による「英会話」が 1 単位（90 分授業が週 1 時間）の 3 つからなる。このうち筆者は 1 学年 4 クラスのうち 2 クラスの「英語」の授業を担当している。2 クラスの A クラス（筆者が学級担任）と B クラスの学力は、1 年次学年末考査の英語系 3 科目の平均

点で A クラスが 81.7 点、B クラスが 87.4 点と若干 B クラスの方が成績が良い傾向がある。

「英語」の授業では学生は年度当初に English Communication II の検定教科書、副教材のフィルインノート（教科書本文や新出単語一覧に書き込みスペースがついているもの）、ワークブック（各レッスンの文法・語彙の応用問題が主に収録されているもの）を購入する。それ以外の配布資料として、通常授業の際には新出単語の英英定義のプリント（図 1）、音読演習用の英語のチャンクごとに日本語対訳がついているプリント（図 2）、授業のまとめとして本文内容についての英問英答や語彙演習を載せたプリントを用いている。

LESSON 3 part 1	
penguin	a black and white bird in the Antarctic, which uses its wings to swim, not fly
toddle	to walk with short, unsteady steps like a very young child
glisten	to shine, looking wet or oily
totally	absolutely, completely

図 1 英英定義プリントのイメージ

LESSON 3 part 1	
In June 2011, / a penguin was toddling around on a beach /	2011 年 6 月に / 1 羽のペンギンが、海岸をよちよちと歩きまわ っていました /
north of Wellington, / New Zealand. //	ウェリントン の北にある / ニュージーランドの //
A local resident /	その土地の住民が /

図 2 音読練習プリントのイメージ

筆者は 2 年生の「英語」授業を例年担当しているが、通常の対面授業（90 分）は図 3 のような流れで行っている。遠隔授業実施にあたり、学生の中には通信環境が十分に整っていないケースが想定され、90 分全てをリアルタイムの実況で行うことは厳しいと判断し、通信環境に応じた学習ができるように図 4 の

\* 原稿受付 令和 2 年 10 月 31 日

\*\* 佐世保工業高等専門学校 基幹教育科

ように対面授業の 2 段階にあたる部分は動画をオンデマンド形式で配信し、通常授業の 5 段階にあたる授業の学習理解の過程は Google Forms も用いた確認テストを行い、授業最後の 20 分でリアルタイムのビデオ会議で確認テストの解説や質問受付を行うようにした。

1 段階	新出単語の発音・意味確認
2 段階	本文の内容読解。学生に発問を投げかけて確認していくスタイル。
3 段階	フィルインノートの本文内容についての確認問題の確認。
4 段階	音読演習。Phrase Reading, Read and Look Up, Rapid Reading, Shadowing
5 段階	まとめプリントで文法ポイントの演習と本文内容について英問英答。
6 段階	ワークブックの演習問題を残り時間に応じて解かせて解説。残った部分は宿題にして次回の授業の冒頭で解説。

図 3 通常授業の流れ

1 段階	フィルインノートの新出単語の欄に意味を記入し、本文に関する問題を解く。
2 段階	教科書本文となりのページの文法例題や本文内容英問英答問題を解く。
3 段階	音読練習シートと音読ビデオを使って、声に出して読む。
4 段階	本文解説動画を再生して、需要事項をフィルインノートに書き込みこむ。
5 段階	フィルインノートの解答を見て答え合わせをする。
6 段階	ワークブックの問題を解いて答え合わせをする。時間が足りない時は宿題とする。
7 段階	授業終了 30 分前にメールで送信されてくる Google Forms のテストに答える。
8 段階	授業終了 20 分前開始のビデオ会議に参加して、テストの解説や授業についての質疑応答。

図 4 遠隔授業の流れ

#### 4. 授業用動画の作成方法

2 年生の「英語」の授業では音読練習用の動画と本文解説用動画を作成した。音読練習用動画は、PowerPoint を用いて作成した。授業用 CD をパソコンに読み込み、PowerPoint の 1 つのスライドに 1 つの音声ファイルを貼り付けて、保存の際に「エクスポート」→「ビデオの作成」→「標準(480p)」→「記録されたタイミングとナレーションを使用する」→「タイミングとナレーションの記録」(図 5) の手順の後でスライドショーを再生し、1 つのファイルの音声が終わるとページを送り、「New Words」→「Phrase Reading」→「Natural Reading」の順番に音声再生される動画を作成した。



図 5 PowerPoint の動画作成イメージ

本文解説動画は iPad の画面収録機能を使って作成した。筆者は通常の対面授業において黒板を使わずに iPad の画面を教室のスクリーンに投影して本文解説を行っている。授業前の下準備として、1).本文のテキストデータを Word に張り付けて、書き込みがしやすいように改行をして、PDF 形式でクラウドに保存する、2).iPad のノート編集アプリ GoodNotes5 を起動し、テキストの PDF ファイルを読み込み、をしている。対面授業の際に、3).アップルペンシルで文構造の記号の書き込み、代名詞と指示語の関係を明示、熟語をハイライト(図 6)、などの動作を学生に発問を投げかけながら行っている。



#### LESSON 3 part 2

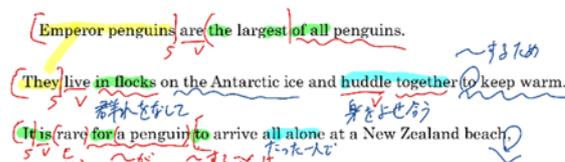


図 6 GoodNotes の書き込みイメージ

遠隔授業のための画面収録では、通常の授業で行っている動作のうち、学生への発問の部分は問いかけをして間を少しおいて書き込むようにした。画面収録機能は遠隔授業が始まるまでは使ったことがなかったので、インターネット上でやり方を検索してスキルを習得した。あらかじめタイトル画面の画像を作成して、iPad の壁紙として設定したあとで画面をスワイプして録画ボタンを出して録画を開始し、GoodNotes5 のアプリを起動して口頭説明を加えながら本文解説画面にアップルペンシルで書き込みを行っていった。停止ボタンを押した後に動画は自動でフォトライブラリに保存されるので、iPad から Office365 のサイトにアクセスして Microsoft Stream に動画をアップロードし、動画の共有 URL を遠隔授業の際に学生に送信するようにした。また、通信環境で動画を視聴するのが困難な学生のために画面収録の過程で出来上がった本文の書き込みを PDF 形式で保存して Blackboard 上で閲覧できるようにした。

## 5. 遠隔授業開始後のトラブル

遠隔授業が筆者の IT スキルが不十分なまま始まり、試行錯誤を経て最終的に図 4 のような流れに落ち着いた。筆者が経験したトラブルについて記述する。

### 5. 1 授業の学習確認の方法

図 4 の 7 段階目の Google Forms のテストは当初はメールに問題を書き、解答を書いて返信という形式であった(図 7)。遠隔授業開始前の授業で実験的に A クラスと B クラスで 1 回ずつ行い、遠隔授業の初日に B クラスで行った。筆者は学校の業務メールはクラウドメールを使っているので、当然のことながら授業後はメールがあふれ、確認する際も 1 通ずつ開き添削して返信するという煩雑な作業になってしまった。

\*\*\*本日の課題です。入力して返信してください。\*\*\*

Class	No.	Name
本日の part3 の new words や本文中の熟語を使って、英語の例文を 3 つ作りなさい。		
例	Members of Demon Slayers have passed their strong wish to beat Muzan Kibutsuji to coming generations.	
(鬼殺隊の隊士たちは鬼舞辻無惨を倒すという強い想いを次の世代へと受け継いできた。)		

図 7 メール形式の確認問題の例

学生の解答を一元化して添削の手間を省くためにたどり着いたのが、自動採点ができる Google Forms のテストモードである。筆者は遠隔授業開始前は業務で 1 度だけ Google Forms でアンケートを作成したことがあるだけであったが、テストの作成の仕方はインターネットで検索して見様見真似で遠隔授業 2 日目から利用を始めた。Google Forms は学校の出欠確認方法で毎日学生が使うツールであったため、ログインのトラブルもなく学生は解答を送信できた。設問形式はパソコンを利用していない学生が容易に入力できるように解答選択式の問題にした。解答の集計をする際に 2 年生は学校のアカウントと学級での出席番号がずれたケースがあるため自動で収集される ID だけでは個人確認が難しく、名票と照らし合わせる作業が煩雑であった。そこで、テストの最初の設問にクラスと名前を入力させるようにした(図 8)。この形式を取り入れてからは学生の参加状況の確認が容易になった。また、当初は 2 クラス共通のテストフォームを使用していたが、参加の有無を確認する際にクラスごとに分けたほうが管理しやすいことに気づき、フォームのコピー機能でコピーファイルを作成し、タイトルにクラス、日付、学習単元の情報を含めることで Google Drive 上で整理しやすくなった。

5月1日 2期 学習確認テストL2-3

このテストの得点はそのまま成績には反映しませんが、平常点として参加するだけでも少なく10ポイントです。

このフォームを送信すると、メールアドレス ( [redacted]@ [redacted].ac.jp ) が記録されます。自分のアカウントでない場合は、[アカウントを切り替えてください](#)

例のように、クラス出席番号名前を入力しなさい。例：2期03上田真梨子

回答を入力

Q1.この数週間の勉強は、試験のときに実を結ぶでしょう。 All these 1ポイント  
weeks of studying will ( ) off when you take the exam.

pay

take

make

図 8 Google Forms テストの例

### 5. 2 授業の出欠確認の方法

本校では遠隔授業中の出席は、学校が作成した日付ごとの出欠確認用の Google Forms に授業時間毎に学生が入力する形式をとっていた。出欠結果は

Google Drive 上の共有ファイルにあるスプレッドシートを開けば確認できるが、全学年の 1 時間目からのデータが表示されているので、遠隔授業開始当初は学年別にソートを行い、該当クラスの中から自分の教科の部分を見つけるという煩雑なものであった。のちに、スプレッドシートで学年別にソートした後、それをコピーしてエクセルに張り付けて科目別ソートと ID の昇順ソートを行う方法にたどりついた。しかし、この手順はデータをコピーした後に遅刻した学生がいると再度全体の出席データにアクセスして同じ過程をふまなければならないので、出席確認に時間がかかってしまう欠点もあった。そこで、他の科目で実践されていた「Teams の投稿を見た後にいいねマークをクリックする機能」を併用することにした(図 9)。



図 9 Teams のいいね活用画面

いいねマークのあとに押した人数や学生の名前が表示されるため、画面を見ながら名簿にチェックを入れる方法で授業最初の出欠が短時間に容易にできるようになった。当初は授業前のメールに出欠の Google Forms の URL と学習の指示や動画のリンクの URL まで載せていたため、Teams を見るよう指示しても全員そろわなかった。確実に Teams を見ってもらうため、メールには出欠 URL だけを記載し、学習の手順や動画のリンクは Teams を見るように、としたところ Teams の閲覧を習慣づけることができた。

### 5. 3 動画の配信方法

筆者は動画配信アプリ Microsoft Stream の使い方をマスターするのに時間がかかり、遠隔授業開始 2 週間は高専学習管理システム Blackboard の担当クラスのコンテンツフォルダに iPad からアクセスして直接画面収録動画をアップロードしていた。しかし動画ファイルは容量が大きく管理者から削除して

Stream を使うように要請がきたので、以後は Stream にアップロードしてリンクの URL を Teams や Blackboard に張り付けるという形式になった。しかし遠隔授業を始める高専が増えてきたころから、様々な教科で Stream が重いという学生の声が聞こえるようになり、補助的なツールとして Google Drive 上に動画をアップロードして共有リンクを設定してその URL を Teams にも併記する形をとるようにした。しかし Google Drive 上にアップロードされた動画は Stream よりも画質が下がってしまうという問題が出たので、動画を作成する際はなるべくスマートフォンの画面でも文字が分かるように iPad の画面を拡大するように心がけた。

### 5. 4 ビデオ会議の進め方

授業最後のビデオ会議は、学生によって回線の状況の良し悪しがあるので出席を義務付けることはせずに、聞き逃しても支障がない内容にすることを意識していた。ビデオ会議に慣れないうちは、学生側でマイクをオンにすることができないというトラブルがよく発生した。授業内容についての質疑応答は音声のやりとりだけでなく、ビデオ会議のチャット画面での文字のやり取りも行われた。また、会議の冒頭に全員揃うことがなく、参加人数が 20 人以上増えてから Google Forms の確認テストの問題解説を行うようにしていたので、それまでの時間は音読の練習や学習した単語・熟語を用いた即興英作文などの活動を行った。

Google Forms の確認テストを開設する際に、Teams のビデオ会議で画面共有機能を使って Google Forms の解答状況画面の解答別グラフを見せながら解説を行おうとしたが、頻繁に画面がフリーズした。これは、Google Forms の回答が受付中で、新しい解答が次から次へと受け付けられその結果が頻繁に画面更新されたのが原因ではないかと思われる。そのためテストの解説を行う際はテスト画面をプレビューモードで解答は表示せずに問題だけを表示するようにしたら、画面共有のエラーが起らなくなった。

### 6. 遠隔授業終了後の対面授業

遠隔授業の期間が長く、通常の対面授業での学生との発問のやり取りが少ないことから授業の進度が早くなり、前期の学習内容 Lesson1~4 を遠隔期間中で

終えてしまっていた。前期期末テストまで 90 分の対面授業が 4 回あったので、1 回の授業で 1 レッソンの音読、テキスト書き込み、PDF を表示して重要事項の確認、教科書付属の試験問題形式のプリントで記述問題の演習などの復習を行った。また、遠隔期間中はフィルインノートとワークブックの点検ができなかったのだが、学生に提出させて書き込みができているか点検をした。

### 7. 遠隔授業についてのアンケート

遠隔授業終了後に学校側が学生に遠隔授業全般についてアンケートを行った。その中の遠隔授業で 1 番良かった科目という項目は、動画が充実していた化学や物理に票が集中したが、2 番目に良かった科目については筆者の 2 年生の英語の科目を選択した学生が 4 名おり、以下のようなコメントを寄せてくれた。

- ・自分のペースで見れた。
- ・授業でどこをやるかが明確で分かりやすい。
- ・この時間に課題を出すというルーティーンみたいなのがあったから。
- ・確認テストで理解度が測れた。

このアンケートだけでは具体的な要望や改善点までは分からなかったので、10 月に改めて 2 クラスの学生 83 名を対象に筆者の遠隔英語授業についてアンケート（資料 1）を行った。

#### 7. 1 遠隔授業で使用した機器

遠隔授業で使用した機器について尋ねた。選択肢は①スマートフォンのみ、②パソコンのみ、③タブレットのみ、④スマートフォンとパソコンを併用、⑤タブレットとパソコンを併用、⑥タブレットとスマートフォンを併用、の 6 つである。

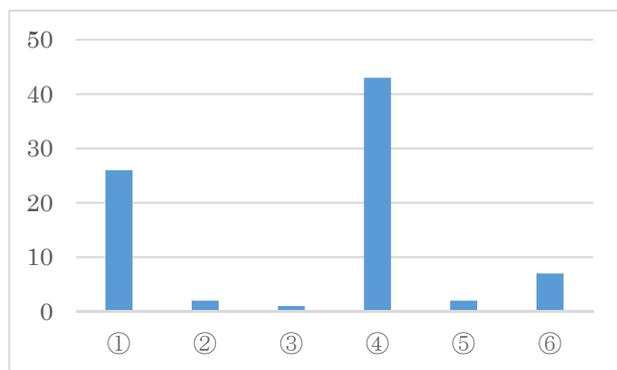


図 10 遠隔授業で使用した機器

①を選択した学生は 26 人おり、スマートフォンのみで受講した学生は全体の約 3 割を占める。②、④、⑤を選択した学生は合わせて 47 名おり、パソコンを使うことができた学生は半数以上になる。スマートフォンだけで受講する学生にとっては、動画を視聴する画面が小さく、また入力する際のキーボード表示が小さく打ちにくいという面を考慮する必要がある。Google Forms の確認テストでは名前以外は選択式の問題にしているため、スマートフォンユーザーも参加しやすい形式だったと思われる。

#### 7. 2 本文解説動画

まず動画の視聴状況について尋ねた。選択肢は、①毎回視聴した、②ほぼ毎回視聴した、③たまに視聴した、④全然視聴しなかった、の 4 つである。

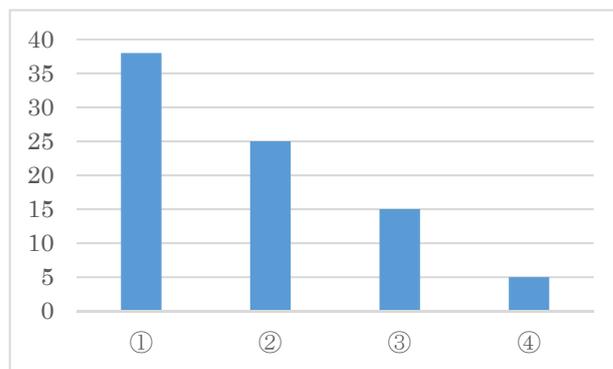


図 11 本文解説動画の視聴状況

①は 38 人、②は 25 人が選択し、合わせると 75.9% の学生が本文解説動画を視聴する習慣があったようである。

③と④を選択した学生に理由を尋ねたところ、表 1 の回答が得られた。

表 1 本文動画を視聴しなかった理由

① 回線の状態が悪いから	2 人
② 見なくても理解できるから	2 人
③ PDF 版の本文解説を見るだけで理解できるから	13 人
④ 興味がなかったから	3 人

②と③を選んだ学生は 75% を占め、視聴しなくてもそれほど問題はなさそうである。しかし④を選んだ学生は対面授業再開後に課題の提出状況があまりよろしくなかったため注意が必要である。

### 7. 3 音読練習の動画

音読練習の動画の視聴状況について尋ねた。選択肢は、①毎回視聴した、②ほぼ毎回視聴した、③たまに視聴した、④全然視聴しなかった、の4つである。

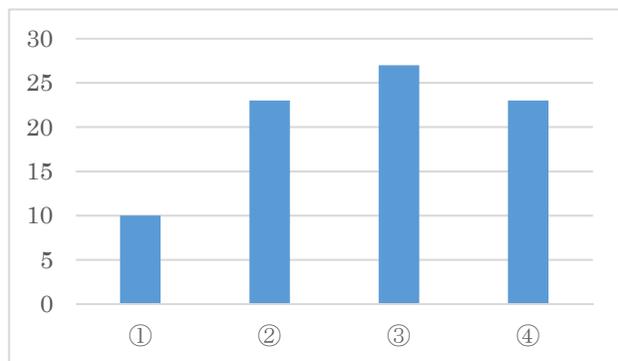


図 12 音読練習の動画の視聴状況

①と②を選択した学生は合わせて 33 人で約 40% が音読動画を視聴する習慣があったようだが、本文解説動画に比べるとかなり低い。③と④を選択した学生に理由を尋ねたところ、表 2 の回答が得られた。

表 2 音読動画を視聴しなかった理由

① 回線の状態が悪いから	7 人
② 見なくても理解できるから	20 人
③ 興味がなかったから	22 人

③を選んだ学生は 44.9% を占め、音読に対する意欲を高めるために動画の構成を工夫する余地がある。

### 7. 4 学習遂行状況

指示された学習内容を 90 分以内に終わらせることができたのか尋ねた。選択肢は①毎回終わらせることができた、②たまに終わらないこともあった、③毎回時間内に終わらなかった、④授業にほとんど参加できていなかった、の4つである。

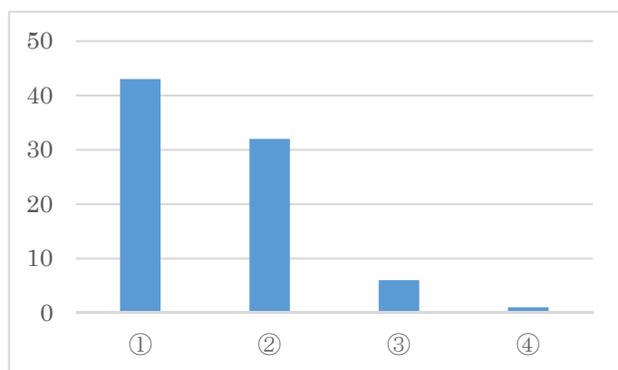


図 13 90 分授業での学習遂行状況

①を選んだ学生は 43 名おり、全体の約半数を占めている。②を選んだ学生は 32 名、③を選んだ学生は 6 名、④を選んだ学生は 1 名だった。②、③、④を選択した学生に時間内に終わらなかったものを尋ねたところ、表 3 の回答が得られた。

表 3 時間内に終わらなかったもの

① フィルインノートの重要事項への書き込み	7 人
② ワークブック	25 人
③ Google Forms の確認テスト	6 人

遠隔授業の際にワークブックは時間内に終わらなかったら次回の英語の授業までに、Google Forms のテストはその日の空き時間までにするようにという指示を出していた。ゆとりをもって学習を進めるためには、ワークブックは次回の授業の課題にしておいたほうがよいようである。

### 7. 5 ビデオ会議の参加状況

授業最後のビデオ会議の参加状況について尋ねた。選択肢は、①毎回参加した、②ほぼ参加した、③たまに参加した、④全く参加しなかった、の4つである。

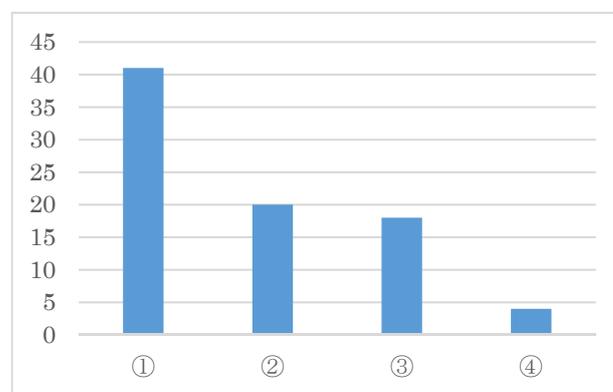


図 14 ビデオ会議の参加状況

①を選択した学生は 41 人で約半数を占める。②を選択した学生は 20 人で、①と②を合わせると 73.1% の学生がビデオ会議に意欲的だったようである。クラス別のデータを見るとクラスの中でビデオ会議に積極的に参加した割合は、筆者が学級担任をしている A クラスは 97.6%、B クラスは 50% とかなり差が出た。これは A クラスの時間割が英語の直後がロングホームルームの時間になっており、授業に続いてホームル

ーム活動を始めることがあったことが一因になっているかもしれない。③と④を選んだ学生に理由を尋ねたところ、表 4 の回答が得られた。

表 4 ビデオ会議に参加しなかった理由

① 回線の状態が悪いから	1 人
② 会議開始時間までに Google Test が終わらなかったから	10 人
③ 質問事項がなかったから	7 人
④ 興味がなかったから	4 人

90 分以内に指示された学習内容をこなせた学生が約半数だったことも踏まえ、Google Test を終わらせてビデオ会議に参加できる作業量を検討すべきであった。

### 7. 6 授業コンテンツのダウンロード状況

Blackboard や Google Drive にアップした、授業の資料（書き込み PDF、英英定義、音読シート、フィルインノートとワークの回答）のダウンロード状況について尋ねた。

選択肢は①全部ダウンロードした、②ほぼダウンロードした、③少しだけダウンロードした、④全くダウンロードしなかった、の 4 つである。

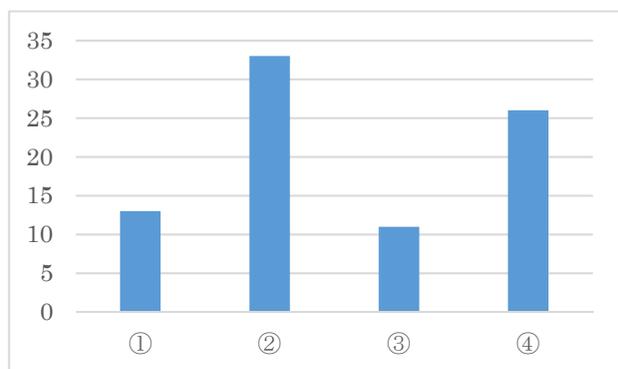


図 15 授業の資料のダウンロード状況

①と②を選んだ学生の数を合わせると、55.4%になり半数以上の学生が授業の資料を活用したことになるが、一方で④を選んだ学生が約 3 割を占めたことは問題である。クラス別で見ると、クラスの中でデータのダウンロードに積極的だった割合は A クラスが 41.5%なのに対し、B クラスは 70.7%と大きく差が出ている。また、まったくダウンロードしなかった割合は A クラスは 46.3%とかなり多いのに対し、B

クラスではほんの 17%にすぎない。これらは B クラスに成績上位層が厚く真面目な学生が多いことが影響しているようである。③と④を選択した学生に理由を尋ねたところ、表 5 の回答が得られた。

表 5 ダウンロードしなかった理由

① 回線の状態が悪いから	3 人
② 必要ないと思ったから	30 人
③ 興味がなかったから	4 人

②が多い要因としては、ビデオ会議や授業動画の中でこれらの資料を用いた活動を行わなかったり、資料の活用の方法をあまり指導していなかったことが一因であると考えられる。

### 7. 7 遠隔授業での理解度

遠隔授業で理解できた度合いについて尋ねた。選択肢は①対面授業とほぼ同じ、②対面授業より分かりにくかったが問題ないレベル、③対面授業が分かりにくく復習が必要、④全く理解できなかった、⑤遠隔授業にほとんど参加できていなかった、の 5 つである。

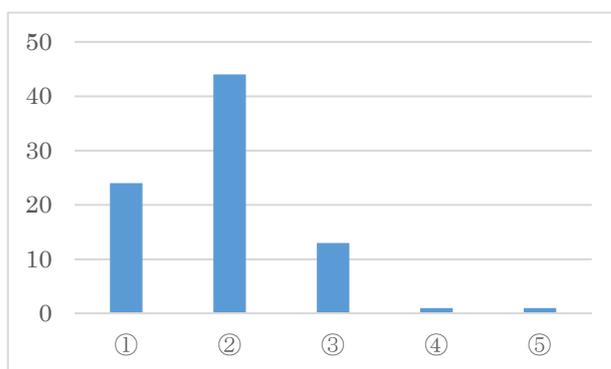


図 16 遠隔授業の理解度

①と②を合わせると、約 82%の学生が遠隔授業の理解度について自信を持っているようである。教科書の英文のレベルが高専 2 年生には容易に読めるレベルであることや、Blackboard 上にフィルインノートとワークブックの解答もアップロードしてあったため、問題を解いてすぐに答え合わせと解説が読めるようになっていた。また、Google Forms の確認テストも自動採点に加えて「不正解に対するフィードバック」の欄に解説を記述しておいたのでビデオ会議に参加できなくても復習ができるようになっていた。自主学習習慣が確立している学生にとっては、遠隔授業でも

十分学習がこなせたようである。

一方で、理解度に不安を抱えた学生は③、④、⑤を合わせると 15 人おり、対面授業再開後の復習について尋ねたところ表 6 の回答が得られた。

表 6 授業再開後の復習状況

① 本文内容の再解説と復習プリントで理解できた	4 人
② 授業の再解説と復習プリントでほぼ理解できた	9 人
③ 授業の再解説と復習プリントでも理解できなかった	1 人
④ 対面授業再開後も授業に取り組む意欲がわかなかった	1 人

③、④を選んだ 2 人以外は遠隔授業期間中に理解できなかった内容を対面授業の復習で補うことができたようである。

## 7. 8 今後の遠隔授業への要望

今度遠隔授業を行う際に、改善してほしい点や要望などを自由記述形式で尋ねた。それらを以下の 4 つの 카테고リーに分類した。

### <①授業で使うシステムの問題>

- ・全教科で使うアプリやソフトを統一してほしい。
- ・Blackboard より Google Classroom の方が便利なので、そちらでもらった方がありがたいです。
- ・Blackboard だとログインとか色々な過程を経て、資料を探さないといけないので、Teams のファイルの所に資料を上げて欲しい。

### <②ビデオ会議の方法の問題>

- ・課題を出して、それをビデオ会議で解かせるという取り組みがよい。
- ・最後の Teams 会議を早めに終わらせて欲しい。

### <③動画の問題>

- ・単語の音読の動画が上手く録音されておらず練習があまり出来なかった。
- ・音読動画がすぐに始まらなかったことがあったので、そこは改善してほしい。

### <④教材についての問題>

- ・ワークなどを毎授業課題にして提出するシステムにすると授業を真面目に受けやすくなる気がするのでそうして欲しいです。
- ・日本語訳をつけて欲しい。

①のシステムについての問題は、混乱を招いた要因として筆者がそれぞれのシステムの特性を十分に活かしきれていなかったことがある。Blackboard は学生の指摘の通り、コンテンツのファイルにたどりつくまでの過程が多すぎた。筆者も試してみたが、スマートフォンからのアクセスで小さな画面で小さな文字を指でタップすることによりかなりイライラさせられた。学校内のパソコンルームで昼休みや放課後に利用できる状況では便利なツールかもしれないが、自宅でスマートフォンからの遠隔アクセスにはかなり不向きなようである。過去の年度の資料をしばらく保存できるので、教師が使うアーカイブ的なツールとして割り切ったほうがよさそうである。

Teams でファイルを配布する方法は、共有ファイルをユーザー同士でリアルタイムの編集ができてしまうので今回は用いなかった。遠隔授業が終盤になるころによく Office365 のクラウド OneDrive や Google Drive のファイル共有のやり方を筆者は理解した。学生は Office365 と Google のアカウントで遠隔授業中は毎日ログインするはずなので、学生に PDF ファイルを配布するだけならば、Drive に保存したファイルの共有リンクを取得して URL をメールや Teams 上で配布すれば、URL をワンクリックするだけで学生はファイルを開ける。このファイル方法は今後の対面授業でも遠隔授業でも用いる予定である。

②のビデオ会議の方法の問題については、アンケート結果で担任していない B クラスの参加率が若干低かったことから、会議に参加する必要性を明確にしなければならぬと感じた。Google Forms のテストの解説は不正解のフィードバック機能で補えているところもあるので、リアルタイムでやりがいを感じられる活動を考える必要がある。土屋(2020)はオンラインのビデオ会議で 3~4 名の学生のマイクをオンにさせておいて教科書本文の内容を表している挿絵やキーワードを示し、1 文交代で Retelling する活動を紹介

しているが、このように一人だけの学習ではなく級友との関わりを持てるタスクを用意すれば、遠隔の学習環境でコミュニケーションに飢えている学生たちにビデオ会議に参加を促すきっかけになりえるのではないかと考えられる。

③の動画の問題について、アンケート結果から音読練習用の動画の視聴状況が悪くあまり興味をひかない内容だったので、改善を検討すべきである。本文解説の動画については、通常の授業のスクリーンの動きを再現できており学生にとってはすんなり馴染めたかもしれないが、教師の動きが全く感じられないのでやや面白みに欠けているところがある。湯澤・南(2020)は授業動画作成の外せないポイントとして、(1)教師が笑顔で顔を出すことで視聴者の緊張がほぐれること、(2)視聴者を飽きさせないように学習活動を1回に4つから5つ程度取り入れること、(3)動画にストーリー性を取り入れること、を挙げている。今回は動画作成ツールがiPadのみであったが、ビデオカメラを所有しているので教師が顔を出して活動をする場面と文字だけの解説場面をつなげて編集する方法を検討する必要がある。

④の教材の問題について、日本語訳については音読練習プリントで英語のフレーズとそれに対応した日本語が表示されているので十分だと思い込んでいたが、1文として自然な日本語に言い直す場面が対面授業ではあるものの、遠隔授業ではないので国語力が弱い学生にとっては負担になっていた可能性がある。また、フィルインノートとワークブックは対面授業が始まってからまとめて提出し確認という方法を取ったが、予想外に空欄が埋まっていない学生が10名程度見られた。解答をアップロードしておけば自分で丸付けをするだろうというのは甘い考えであった。他の教科ではカメラで撮影した課題をアップロードして提出という手段が使われていたので、遠隔授業が今回のように2カ月以上に及ぶ場合は、1レッスンの終わりにまとめて撮影して提出という学習確認は、学習から脱落している学生を確認して指導するために必要である。

## 8. 最後に

遠隔授業を終了して対面授業での復習を経て、夏休みに入る前に前期期末試験が行われたが、60点に満

たない赤点をとった学生はAクラスではいなかったが、Bクラスでは3名出た。例年の状況と比べると、赤点を取った人数は大差はないが、提出物や学習進度を確認する取り組みが今回は不十分だったので、出欠状況や提出物の状況をこまめに確認して問題を抱えている学生を早期に見つけて指導していくことが、遠隔授業においてかなり大事であることを痛感した。その後、夏休み明けの英語課題テストは真面目に指示された学習内容をこなせば80点以上は取れる内容で実施したのだが、平均点はAクラスは71.9点、Bクラスは83.2点で、前期期末試験で赤点を取った学生は60点以上を取れており、遠隔授業での学習意欲減退が改善しつつある様子が見えてきた。

今回の遠隔授業実践の今後への課題として、動画内容の改善、学習進度の確認方法の改善、授業システムツールの活用能力の向上、ビデオ会議での活動内容についての再考が挙げられる。ICTツールは利用しないと使い方をすぐに忘れてしまうので、対面授業においてもスマートフォンを用いたドリルや配布資料をクラウド共有機能を使って配布する方法を継続的に利用し、教師・学生ともに使いこなせる状態を維持していけるようにしたい。

## 参考文献

- 湯澤康介・南勇輔「必見！子どもの頭と心に残る動画の作り方」、『英語教師のためのオンライン授業・動画配信ガイド』、英語教育別冊 2020年10月、pp.12-14, 2020
- 土屋進一「双方向のやりとりを活かした高校でのオンライン授業」、『英語教師のためのオンライン授業・動画配信ガイド』、英語教育別冊 2020年10月、pp.38-39, 2020
- 佐世保高専情報処理センター「佐世保高専におけるG Suiteについて」(校内研修資料)、2020
- 佐世保高専コンテンツ作成支援チーム「Office 365の使い方」(校内研修資料)、2020
- 佐世保高専コンテンツ作成支援チーム「動画作成と配信方法」(校内研修資料)、2020

(資料 1)

遠隔授業についてのアンケート

Q1. 遠隔授業で使用した機器を選びなさい。

1. スマートフォンのみ
2. パソコンのみ
3. タブレットのみ
4. スマートフォンとパソコンを併用
5. タブレットとパソコンを併用
6. タブレットとスマートフォンを併用

Q2. 教科書の本文解説動画を視聴しましたか。

1. 毎回視聴した
2. ほぼ毎回視聴した
3. たまに視聴した
4. 全然視聴しなかった

Q3. Q2 で 3,4 を選んだ人は視聴しなかった理由を選びなさい。

1. 回線の状態が悪いから
2. 見なくても理解できるから
3. PDF 版の本文解説だけで理解できるから
4. 興味がなかったから

Q4. 音読練習の動画を視聴しましたか。

1. 毎回視聴した
2. ほぼ毎回視聴した
3. たまに視聴した
4. 全然視聴しなかった

Q5. Q4 で 3,4 を選んだ人は視聴しなかった理由を選びなさい。

1. 回線の状態が悪いから
2. 見なくても理解できるから
3. 興味がなかったから

Q6. 指示された学習内容は 90 分以内に終わらせることができましたか。

1. 毎回終わらせることができた
2. たまに終わらないこともあった
3. 毎回時間内に終わらなかった
4. 授業にほとんど参加できていなかった

Q7. Q6 で 2,3,4 を選んだ人は、時間内に終わらなかったものを選びなさい。

1. フィルインノートへ重要事項の書き込み
2. ワークブック
3. グーグルフォームの確認テスト

Q8. 授業最後のビデオ会議は参加しましたか。

1. 毎回参加した
2. ほぼ参加した
3. たまに参加した
4. まったく参加しなかった

Q9. Q8 で 3,4 を選んだ人は理由を選びなさい。

1. 回線の状態が悪いから
2. 会議開始時間までに GoogleTest が終わらなかったから
3. 質問事項がなかったから
4. 興味がなかったから

Q10. Blackboard や Google Drive にアップした授業の資料（書き込み、英英定義、音読シート、フィルインノートとワークの解答）はダウンロードしましたか。

1. 全部ダウンロードした
2. ほぼダウンロードした
3. 少しだけダウンロードした
4. まったくダウンロードしなかった

Q11. Q10 で 3,4 を選んだ人は理由を選びなさい。

1. 回線の状態が悪いから
2. 必要ないと思ったから
3. 興味がなかったから

Q12. 遠隔授業で理解できた度合いを選びなさい。

1. 対面授業とほぼ同じ
2. 対面授業より分かりにくかったが、問題ないレベル
3. 対面授業より分かりにくく、復習が必要
4. まったく理解できなかった
5. 遠隔授業にほとんど参加できていなかった

Q13. Q12 で 3,4,5 を選んだ人は、対面授業再開後の復習ではまるものを選びなさい。

1. 本文内容の再解説と復習プリントで理解できた
2. 授業の再解説と復習プリントでほぼ理解できた
3. 授業の再解説と復習プリントでも理解できなかった
4. 対面授業再開後も授業に取り組む意欲がわかなかった

Q14. 今後遠隔授業をする際に改善してほしい点、要望などがありましたら自由にお書きください。